

香川県における小麦新奨励品種「チクゴイズミ」について

大山興央・大川俊彦・村上優浩・西村恵
・藤田究・井之川育篤・井口工

「チクゴイズミ」は農林水産省九州農業試験場において「関東 107 号」と「アサカゼコムギ」の交配の後代から育成された。本県では 1990 年より奨励品種決定調査に供試し、その特性と適応性を調査した結果が良好であったので、1998 年に小麦奨励品種として採用した。チクゴイズミの品種特性及び栽培特性について検討した結果は以下のとおりであった。

1. チクゴイズミはダイチノミノリに比べて、出穂期は 1 日程度早く、成熟期は 1 日程度遅い早生種に属する。稈長はやや長く耐倒伏性は劣る。穂長は同等で、穂数は多く、多収であった。
2. 加工適性については、ダイチノミノリに比べて製粉性及び製めん性は優れていた。
3. 穂発芽抵抗性は難で、ダイチノミノリに比べて穂発芽の発生は少なかった。
4. 播種期及び施肥法について検討した結果、チクゴイズミの播種適期は 11 月中旬であり、窒素総施用量はダイチノミノリよりやや少な目の 0.8kg/a で、このうち 0.6kg/a を基肥に、0.2kg/a を 2～3 月に追肥するのが適当と考えられた。

キーワード:小麦, 新奨励品種, チクゴイズミ